



## 今回の研究支援部だよりは、**夏季公開研修会** についてです!

7月26日(水)27日(木)の2日間、夏期公開研修会が開催されました。他校からも多くの先生方が参加され、たくさんのご意見をいただきましたので、アンケートの一部を紹介させていただきます!!

時間	26日(水)		27日(木)	
9:30	①研修 「自立活動における授業実践」 大阪府立佐野支援学校 清水謙二様	⑦教材展示 ↓	②研修 「教育と家庭と福祉でチーム支援」 LITALICO ジュニア新大阪教室長 澤田和幸様	⑧教材展示 ↓
12:00	場所:多目的室		場所:多目的室	
昼休憩	図書室解放		図書室解放	
13:30	③おみのエインクルーシブカフェ テーマ:自立活動		④おみのエインクルーシブカフェ テーマ:チーム支援	
15:00	⑤個別相談会	⑥個別相談会		
16:00	場所:小学部教室		場所:小学部教室	

### 1. 『自立活動における授業実践』 大阪府立佐野支援学校 清水謙二先生

《研修について、考えたことや感想》

- ・事例別の自立活動の説明がとてもよかった。
- ・小学校の中での通常学級と特支学級のつながりについて話し合いのシステムを作っていきたいと思った。
- ・学習指導要領の内容を交えながら話をいただき勉強になった。
- ・高等学校に勤めています。軽度の知的障がいや、ASDの生徒が毎年入学してくるものの通級などはないため授業での支援方法をもっと考えていかなければならないと強く感じました。
- ・自立活動の重要性と効果的な方法がよく分かった。特にチェックリストは、適切な目標設定を行う上で取り入れていきたいと思います。
- ・課題整理、目標設定シートや生徒の具体例、事例を知ることができ、勉強になりました。
- ・学習指導要領の改正点とその目的を詳しく知ることができた。
- ・「自立活動」という基本的には知っておかなければならないことから、それをどう現場で生かしていくかまでとても分かりやすくポイントを押さえて話していただけて勉強になった。
- ・経験が少ないので、学校内で共有し、話し合いながら進めていくことの大切さを感じることができた。
- ・小学生の児童においても、将来を見据えて今何をすべきかしっかり考えようと思った。
- ・個に応じた教育課程の編成がなかなかできていないなと思いました。
- ・研修資料をデータでもらえたのでありがたかった。

- ・教員同士の理解や協力を得ることが今の私のいる学校では一番の課題だと改めて実感した。
- ・普段から悩んでいることを、いい方向で繋げられそうな研修でした。
- ・もっと目標設定を絞り、明確にして支援していこうと思った。
- ・実際に自立活動における実態把握のためのチェックリストを同じ職場の先生と一緒に話し合いながらできたことで指導について明確になったことがよかったです。
- ・支援内での話し合いや、情報共有の大切さがよくわかりました。

## 2. 『教育と家庭と福祉でチーム支援』株式会社 LITALICO ジュニア 新大阪教室長 澤田和幸様

### 《研修について、考えたことや感想》

- ・講師の方々の話がとても分かりやすかった。
- ・一人ひとりが、自分に合った支援をよりスムーズに受けられるようになればと思いました。
- ・福祉の観点で話を聞いてよかった。福祉サービス利用の手続きについてよくわかりました。
- ・チーム支援には、まず相手（教育・学校・行政・医療など）がどんなことをしているのかを知ることが必要だと感じました。
- ・今まで少しは知っていたことを、体系的に整理し、深めていただけてとても良かったです。
- ・福祉と学校が一緒になって、一人ひとりのニーズに合った支援をすることの望ましさについてよくわかりました。前任校で支援をしていた時に、デイの方から色々な情報をいち早くいただき、助かったことが多かったです。そのような関係をもっと膨らませられたらいいなと思いました。
- ・ぜひとも先生方と一緒に学びを深める機会を、定期的に続けていただきたいです。
- ・先生方の反応や疑問、日頃悩んでおられることなどを知ることができ、今後の連携にしっかりと生かしていきたいと思います。
- ・愛着障がいについて、具体的に想像することができた。事例を参考にして、子どもとの関わりを変えていこうと思えた。
- ・愛着障がいについて、どのように関わるのか、普段支援している方法が間違っていないことが確認できて良かったです。
- ・愛着障がいの児童かな？という児童のアセスメントが必要だと思いますが、子どもの保護者との連携がいつも難しいです。
- ・愛着障がいについては、子どもだけでなく、保護者についても支援を要する場合がありますので、子ども以上に難しいなと思っています。
- ・愛着障がいへの対応について、“長い目で”とのことでした。暴力や暴言などがある場合、心身共にとてもつらいです。だからこそ、チームで支援していくこと、教員一人がその子の全てを対応するというのではなく、チームで支え合って対応することができたら、と思いました。
- ・PBSの考え方、対応、指導の方法についてお話を聞き、自分自身が子どもに大きい声で叱ってしまったり、感情（怒っているという）を出してしまっていることを痛感しました。PBSの、失敗しない対策や、行動後の強化因子を高める対応についてふり返り、2学期以降の対応に生かしていきたいと思います。

※詳しい研修内容について知りたい先生や、研修資料をご覧になりたい先生がいらっしゃいましたら、お気軽に各学部の研究支援部までお声かけください!!

